会　議　録

審議会等の名称	第２回山口市教育振興基本計画策定委員会	
開催日時	平成２９年８月３０日（水）１３：３０～１５：３０	
開催場所	山口市役所別館１階第１会議室	
公開・部分公開の区分	公開	
出席者	村上委員長、川野副委員長、ウィルソン委員、岡本委員、川久保委員、 藏重委員、砂井委員、田澤委員、田原委員、中村委員、藤井委員、藤川委員	
欠席者	小野委員	
事務局	中谷教育部長、礒部教育部次長、原田教育総務課長、伊藤教育施設課長、江山学校教育課長、井上社会教育課長、石川教育総務課主幹、岡本教育総務課副主幹	
付議案件	議　　事 （１）山口市教育振興基本計画の構成内容について ①基本的方向性１ ②基本的方向性２	
内容（委員発言部分のみ）	村上委員長	それでは議事の（１）山口市教育振興基本計画の構成内容についてのうち、①基本的方向性１について事務局から説明をお願いします。
	原田教育総務課長	（１）①について説明
	江山学校教育課長	山口情報芸術センターとの連携事業（スポーツハッカソン）、全国学力・学習状況調査について補足説明
	村上委員長	今の説明について、皆様から質問や意見をお願いします。
	田原委員	施策の効果を見るには、導入前と導入後がどうであるか客観的な評価が必要と思います。施策導入前の基本となるデータとしては、この統計資料は使えないと思います。この統計はその年の横断的なものであるが、子どもたちの成長をいくつかの集団で続けて追っていかないと効果がはかれないし評価できない。
	原田教育総務課長	資料１について、これまでの状況を知っていただくためにまとめています。成果を見るには成果指標案として資料２に示しています。
	田原委員	例えば、山口市の保健センターで、生まれた子どもが月齢を重ねていくと、何パーセントの人が予防接種を受けていると、累積率をとっている。今年の一年生を追っかけて二年生や三年生になったときにどうなったかというデータをとらないといけない。これを切り替えないと計画が良いとか悪いとか言えない。
	村上委員長	今の指摘は、小６でテストを受けて、中３でテストを受けて、どのように変化していくかという観点ですね。

	藏重委員	単純に現段階の成果を資料としているのではないか。
	田原委員	村上委員長提供の資料でも、４歳からずっと大人になるまで追っかけているから成果があるかどうかわかるが、今日の資料では成果がわからない。
	藏重委員	１ページ、アクティブラーニングは能動的学習という訳になるが、よく、グループ学習をやってそのまま終わるという授業がある。その前に教え込まなければならないことはしっかり教えるということが前提条件と思います。アクティブラーニングにのめり込むことは良くないと考えます。 ２ページの部活動の充実、地域人材の活用とあるが、早く外部の人材に全て任せるということにした方が良いと思います。 次の道徳教育、道徳科への対応について、これも、グループ学習をよく実施していますが、道徳はそもそも教え込むものだと思います。
	田澤委員	３ページ目の読書活動の推進が、豊かな心の一項目になっています。 文科省のガイドラインでは、学校図書館は読書センターというだけでなく、授業の内容を豊かにする学習センター、児童や生徒のニーズに対応した情報収集能力を伸ばす情報センターと考えるとあります。 障がいを持っている子と一般の子が一緒に教育を受けるという幅広い教育の現場において、やはり子どもたちの生きていく力を付けるには学校図書館の役割は重要で、司書が２校に１人では少ないと思います。そのあたりの取り組みはいかがか。
	江山学校教育課長	学校図書館は司書と教員が相談しながら調べ学習などに活用していますが、充分でない場合もあります。また、生きる力をつけていくという点では、もっと活用方法を工夫しないといけないと考えます。
	川久保委員	基本計画を立てるときにＰＤＣＡを考えるということを同時に行います。チェックをする機能、これを受ける形になっていない。山口市はこのパターンで回していくと言ってほしいと思います。内容の前にＰＤＣＡが必要です。 教育は教員の質をどう高めていくかにつきると思います。先生方がきちんと勉強する時間があることが重要です。その人が育つために、マニュアルではなくて研修を民間の力も借りながらきちんと受けさせることが必要です。
	ウィルソン委員	教員だけではなく、親のことも重要です。自己肯定感を高めることについて、いろいろ調べてみると、子ども自身が小さい時から、自分には特長があると考えられるようにする必要があります。得意としていることに注目して、できないことは批判しないことが大切です。努力したことをほめる必要があります。それ以上に親、先生が子どもたちから見てモデルになるので、大人が自分のことを好きになることが必要です。 日本では謙遜して、配偶者のことを他人の前でほめないが、これも言

		葉に気をつけないといけないと思います。アメリカ、カナダでは５２の美徳といって１週間に１つ美徳を教えていくプログラムになっていて、教室にも貼り出してあり毎日、目にして触れます。日本でも指導者が見習ってとりいれると良いと思います。
	藤井委員	自己肯定感が少ない子が多いと思います。自己肯定感を作り出すには、就学前の教育や家庭教育の充実が必要です。何か対策が無いものかと思います。
	原田教育総務課長	自己肯定感の向上には、いろいろな分野にまたがってくると思います。どう計画に盛り込んでいくか検討します。
	村上委員長	配りました資料ですが、ジェームス・ヘックマンの研究です。４０年間の経過を追った資料です。５歳までの発達の質がその後のより良い教育、健康、経済的結果に大事であるということです。５歳以降は教育の充実に投資しても収益が投資の額を下回るというものです。５歳までに、認知的スキル、社会的能力、身体の健康を発達させるというものです。 社会的能力とは、例として、安定、肯定感、忍耐力、信頼感、思いやりなどです。 平成３０年の幼稚園教育要領の改訂で育てたい資質として、自立心、協調性など１０項目あります。 公立幼稚園の役割としては地域における幼児教育をリードする必要があります。 前回の会議の資料で、幼稚園教育推進事業の成果をみる欄に、幼稚園のあり方を整理する中でコスト削減の余地ありと後ろ向きの記載があります。教育委員会は短期的な方向性よりも長期的な視点で、本来の役割を考えていく必要があります。 今後、幼稚園教育を指導する主事やアドバイザーが必要です。周南市、下関市では教育委員会に幼稚園の指導主事がいます。 幼児教育の現代的要請に応えられるような教職員の育成が必要です。
	藏重委員	幼保一元化として、一つになってやっていく体制に切り替える必要があります。
	村上委員長	教育の視点から考えれば、教育委員会が主導していく必要があると思います。
	中谷部長	山口市では保育園と幼稚園との職員の採用では両方の資格を有することが採用条件で、幼稚園、保育園相互に行き来する人事を行っています。幼稚園指導要領に基づき保育園の指導要領を作っており、山口市立だけで言えば、同じ指導要領です。私立はそれぞれ独自性を出し、幼稚園も特色を出さないと人が集まらない状況です。
	村上委員長	小学校の先生では幼稚園の教育のことは知らないので、幼児教育をどう進めるかは専門の人がリードするシステムを作る必要があります。

	川野副委員長	学力向上は学校では一生懸命やっている、ただ家庭等の問題で低学力ということもあります。また全国的な施策もあるため、全てが山口市の成果ということにはならないと思います。 大事なのは低学力の子どもに放課後や夏季休業中などの学習指導を充実させることだと思います。担任ではなく地域住民によって指導するなどして、低学力の子どもに手厚く学習する機会をつくることが重要です。 道徳の授業では、先生は説教をしません。子どもたちに議論させた後に先生が教えないといけないが難しいところもあるので、地域の方が最後に大事なことだよといってもらうと重みが変わってきます。 全体的なことですが、この計画の方向性については２０１７年までと同じということで良いでしょうか。
	原田教育総務課長	基本的に大きな方向性は踏襲します。
	藏重委員	道徳の授業においても、学校の先生が教え込むことが必要だと思います。
	川野副委員長	先生が教え込むことはできるが、先生とは違う方で実体験を持った人がいると、より良い授業になると思います。いろいろな方の意見が入ることが良いと思います。
	田原委員	医学生などが意見交換するときに、チューターが一歩引いてディスカッションを深めます。しかし、日本では、一歩下がるより、ときどき介入するほうが良いアウトカムが見込める場合があります。 ２ページの健やかな体をつくるという項目は、年１回山口市で実施している「すこやか山口っ子元気塾」において全て実施しています。３４年続いており、ノウハウが蓄積したものをここに加えていただくとふくらみがつくと思います。
	村上委員長	学力調査の結果について平均点だけでは無く、分布の傾向について示していただけると良いと思います。上位と下位が分かれているのであれば、対策も示していただきたいと思います。
	川久保委員	データについて、小学校、中学校の学年は何年ですか。
	江山学校教育課長	小学校６年と中学校３年です。
	ウィルソン委員	小学校で英語活動が始まっているが、中学校で授業が始まったときに、できる子とできない子、好きな子と嫌いな子が二元化されるそうです。 今後、小学校５、６年生で教科になった方が、遊びでは無く、授業としてしっかり努力すると思うので良いと思います。 また、英語活動では、ＡＬＴと教員との打ち合わせが少ないと聞きますし、子どもたち全員に英語を話させるには大学生や地域の方など英語ができる人を取り入れたほうが良いと思います。

		資料２の指標について、英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする児童の割合というのはどのように計測するのですか。
	江山学校教育課長	子どもたちにアンケートをとりたいと考えています。
	藤川委員	学校に司書、図書指導員がいるが、そのスキルによって図書館の活用の仕方に差が出てくる。２から３校の兼務では教員との連携が充分にできないのでは。より有効に人材活用をしたり、手厚い人材配置が必要になるのではないでしょうか。
	岡本委員	健やかな体をつくるというところですが、子どもたちの食事がなっていない状況です。親がいないときはコンビニに行ったりして、好きなものを食べます。また、親の食事に対する姿勢が良くない状況もあると思います。長期の休業中が問題です。 自分の力を育てる、興味を待たせるように学校でも取り組んでいくことが必要と思います。
	村上委員長	有難うございます。①基本的方向性１については終了しまして、それでは次に、②基本的方向性２について事務局から説明をお願いします。
	原田教育総務課長	（１）②説明 なお、コミュニティ・スクールについては、砂井委員から事例紹介等をお願いします。
	砂井委員	大殿地域の紹介をします。コミュニティ・スクールは学校運営協議会を設置している学校、地域協育ネットは小学校から中学校卒業までの育成を支える仕組みです。 コミュニティ・スクールは学校支援、学校運営、地域貢献の３つの役割があります。 学校支援では、主に学習支援に取り組んでいます。ボランティアの活動は子どもにとっても、良いモデルになっています。 資料の地域教育ネットの地域コーディネーターは、地域の方と学校を結んでいます。地域の人口７，０００人で３００人くらいのボランティアがいます。 以前、京都で開かれたコミュニティ・スクールの大会で文部大臣表彰を受けました。 学校運営では、学校運営協議会において、学校の運営方針や学校評価について協議しており、地域らしい学校になっていくよう話しています。 ３つ目の地域貢献では、例えば、地域でホタル祭りなどを盛り上げたいという意向に対して、小学校全体で蛍の飼育や川の清掃活動などに取り組んでいます。 全国大会にも出場している合唱部も敬老会などに参加しています。 地域の方と触れ合うことは、地域の方に子どもたちが頑張っていることを認めてもらうことになり、ふるさとを愛する心を育むことになると

		思います。
	村上委員長	今の②基本的方向性２の説明について、御質問、意見はありませんか。
	藏重委員	鴻南中のコミュニティ・スクールに参加していますが、鴻南中は取り組むのが遅かった。その理由は、学校運営協議会の会則に学校長の教育方針を承認するとあるが、学校教育のプロに対して協議会が判断するのはおかしいと考えます。また、保護者による学校評価も同様に反対です。
	田原委員	プロフェッショナリズムについては同感ですが、家庭の要素が多様性のある時代になっています。より多くの人に理解してもらうことが必要と考えますので、意見を吸い上げる窓口はあった方が良いと思います。 最終的には、満足度があがることが必要と思うので、みんなでより良いものを作るための仕組みは必要です。
	藤川委員	大殿地域で学習支援ボランティアを１２年しています。学校に入っていくには、より多くの地域の方の目というものが必要です。先生との関わり、子ども同士の関わりが見えてきて、学校の雰囲気を、肌で感じて保護者同士も学校のことを話していくことが大事だと思います。
	中村委員	この場では、個人の意見を述べるだけで良いのかどうか分からないですが、子どもたちをいかに健やかに育てるかと考えると、先生だけでなく、家庭だけでなく、地域も一緒になって育てていこうということだと思います。部活動に時間を取られて、先生も本来の仕事ができない。全てを地域の人に任せたときに、その人の質によって成果は変わってきます。また、子どもたちが地域の人たちとコミュニケーションがとれる、道徳的なところが身につく、学校の授業に地域の目が入ると先生の質が上がるなど地域も一緒になって育てるということで良いと思います。
	中谷教育部長	委員の皆様にはそれぞれの視点から御意見をいただきたいと思います。それらを参考に教育委員会事務局で作成作業を行い、最終的には教育委員会が策定します。
	田原委員	将来的には確実に人口が減っていき、市の予算も限られてくるので、教員の定数もダウンサイジングしていきます。英語はネイティブの人に教えてもらわないといけないが、ＡＬＴは足りないので、ＡＩなどが進化していくので取り入れていく必要があります。 児童・生徒の瞬間的な理解度を先生が感じるのに、メディアを活用することが有効です。パッドが高価で導入できなければ、携帯を使ってリアルタイムに評価していくものがありますので、活用してはどうかと思います。
	江山学校教育課長	小学校では、今年度と来年度でタブレットを学校規模に応じて１から２クラス分導入していく状況です。
	中谷教育部長	小学校のタブレットは来年度までに、中学校のタブレットは再来年までに、電子黒板は来年度までに導入したいと考えています。また、デジ

		タル教科書の導入も進めたいと思っています。今後は教員がどのように使いこなすかが重要になるので、活用方法の研究も進めています。
	田原委員	まだ、スピード感が足りないと思います。標準化されるプログラムを待っていないで、上手な先生の映像を電子黒板で流すなど、できることからどんどん実施した方が良いと思います。
	中谷教育部長	小学校では先生が手作りで良い授業されている方もいるし、コンピュータを使うのが上手な先生もいます。手作りについては、先生の中でスキルの蓄積がなされています。コンピュータの活用については、十分な蓄積は無いが、映像なども含めて蓄積し、共有を図っていきたいと思います。
	川久保委員	資料２における校内研修とは、どのようなものですか。
	江山学校教育課長	授業終了後に校内で先生たちが研修を実施する回数ですが、時には外部講師を呼ぶこともあります。
	川野副委員長	地域の文化伝統について、地域の方が先生となることはあると思うが、日常の授業の中に地域の人が入ると良いと思います。子どもがグループワークをしているところに地域の人が入って、子どもたちが一生懸命に考えて表現したことを褒めるなど関わることが大切と思います。 現在は、そのような取り組みはありますか。学校開放週間はありますか。
	江山学校教育課長	地域の方に学校に積極的に関わってもらうという流れがあり、積極的に取り組むよう校長に指導しています。 学校開放週間を設けている学校はあります。どの学校もいつでも地域の方を受け入れる状況になっています。
	藏重委員	先生方も休みは必要ですが、夏休みの先生の勤務はどうなっていますか。どのくらい休まれていますか。しっかり休んでもらって自己研鑽にもあててもらいたい。
	江山学校教育課長	年次有給休暇や夏季休暇を取得することになります。平均では７日間くらいだと思います。
	中谷教育部長	給食調理員も夏休みに出勤しています。研修もしています。最近では、働き方改革という動きもあるので、社会全体の動きに合わせて、長期の休みをとって自己研鑽するなど、昔はおおらかで許容されていた良い点を見直していくことも大切と思います。
	川久保委員	民間でも３０歳代の人がリフレッシュをどうやってしていくのかが大問題です。ある会社では役員会で休暇プランを発表して、採用されれば３箇月間の休暇と１００万円を渡してプランを実施させる取り組みがあります。教員の研修は大事だが、役所は報告書をすぐに出させる。その報告書が無駄です。教育委員会も教員に３週間とか１箇月とか費用を出して休ませて自己研鑽させることも重要ではないか。そういったことも

		教員の質を高めるというところに入れられると良いのではないか。
	中村委員	インクルーシブ教育の充実、誰もが教育を受けやすくするというところで、社会的弱者の子どもたちが沢山いると思いますのでしっかりと重点を置いていただきたい。いじめなど学校に行きたくても行けない子もいるので、手厚い周りの支援が必要になってきます。補助教員など、充分な人員を配置できるようにしていただきたいと思います。
	田澤委員	読み書きに支障がある子への対応についてです。資料２で特別支援学級または通級指導教室で支援を受けている児童・生徒数とあるが、これが次第に増えていくというのは、指導をうけなければならない児童に対応することができた人数ということで数字が増えているのか。
	中谷教育部長	この数字を増加傾向で見ているのは、実際の人数が増えているということによるものです。子どもの人数が減っている中で、増えている原因については、はっきりしていない状況です。対象の見方が変わってきているということもあると思います。
	田澤委員	障がいのある人と障がいの無い人が可能な限りともに学ぶという仕組みはどのようなものですか。
	中谷部長	障がいの程度によって支援方法の工夫が必要だったり、難しかったりしますが、基本的にはそういう差を無くしていく方向です。一方で教育がしっかり受けられない状況もいけないので、可能な限り一緒に授業が受けられるように取り組みを高めていっている段階です。
	村上委員長	みなさん、有難うございました。 それでは、議事を終了したいと思います。事務局に進行をお返しします。
	原田教育総務課長	次回の会議は９月下旬で調整したいと考えております。